

## スポーツ推進事業

アナ： 「市長が語る 2017 三島」第3回の今日は、「スポーツ推進事業」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： スポーツの推進ということですが、具体的にはどういったものでしょうか？

市長： スポーツと聞いて、まず思い浮かぶのは何と云っても2020年の東京オリンピック・パラリンピックではないでしょうか。三島市は、東京オリンピック・パラリンピックに関して、アメリカを対象とした「ホストタウン」として国からの登録を受けています。種目としては、バレーボールを想定しています。

アナ： あまり聞きなれないのですが「ホストタウン」とは、どのようなものですか？

市長： 簡単に言うと、オリ・パラに参加する国や地域との交流を図る自治体を、国が登録した後押しするというものです。

アナ： では、バレーボールのアメリカチームが三島に来てくれるのですか？

市長： ホストタウンに登録されたからといって、その国やチームが事前合宿に来てくれるというわけではありません。実際に来てもらえるように、「三島市スポーツ・文化コミッション」を中心として、実際に受け入れを支援して下さる東レアローズさんとも連携をしながら誘致活動を進めていきます。

アナ： ぜひ来て欲しいですね。私も楽しみにしています。

市長： 平成27年度には、日本で開催された「バレーボール ワールドカップ 2015」に出場するため三島で事前合宿をして、見事に優勝していますからね。また来ていただけると信じています。

アナ： オリンピックに向けた楽しみが増えますね。ワクワクします。

市長： オリンピック開催を契機にした取り組みと言えば「みしまジュニアスポーツアカデミー」があります。これは、自転車、陸上、ホッケー、レスリング、ボートの競技体験などで種目適性を見極める、アスリートの発掘・育成プログラムです。すでに第1期生が1年間の競技体験プログラムを終え、5人の中学生が新たな競技でトレーニングを積んでいます。

アナ： 何年か後には世界の舞台で戦える選手に育てられるといいですね。

市長： 一方で生涯にわたって健康を維持するための新たな取り組みとして、スポーツ保育を実施します。

アナ： それはどのような取り組みになるのでしょうか。

市長： 近年は、テレビゲームなどの室内遊びが増え、幼児が屋外で遊ぶ機会が減ってきています。そこで、幼児期にしっかりと運動習慣を身につけられるよう、順天堂大学と連携して、保育園、幼稚園に通う4、5歳児を対象に、保育、教育の

**現場で運動遊び教室を開催します。**

アナ　実際にはどのようなことをするのでしょうか？

市長　具体的には、錦田幼稚園、錦田保育園、坂幼稚園の3園をモデル園として、月1回の運動遊び教室を行い、子どもたちの運動機会を増やししながら、先生方にも実技を習得してもらい、日常の保育・教育現場で生かしていただきます。

アナ　とっても楽しそうで、自分が子どもだったら待ち遠しい時間になりそうです。

市長：　このように、東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進が、今後さらに加速していきます。

そして、それは2020年以降も継続していくことになるでしょう。

アナ：　スポーツを通じて、三島が、地域が、日本全体が活性化されていくのですね。オリ・パラ以外のお話もお聞かせいただけますか？

市長：　先ほど名前の出ました「三島市スポーツ・文化コミッション」の活動からお話ししますと、記憶に新しいところでは、先日市民体育館で行われた「大相撲三島場所」の開催ですね。

アナ：　ああ、大相撲の巡業ですね。私の周りでも多くの方が観に行っていました。

市長：　スポーツでは、「する」「観る」「支える」ことが大切だと言われていますが、巡業は「観る」スポーツですね。市内には土俵がある学校もありますので、こちらは「する」スポーツ、「支える」スポーツということになると思います。

このように、スポーツを文化として根付かせていく視点が非常に大切なのではないかと考えています。

アナ：　スポーツが文化として根付き、地域を活性化させていく。

まさに、市長が日頃からおっしゃっている「スマートウェルネス」につながっていくのですね。　豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長：　ありがとうございました。